

## 平成29年度事業報告

平成29年度は、地球温暖化の影響によるここ数年の異常気候のように、思いもよらないことがあった。都議会議員選挙では、小池都知事が代表を務めた都民ファーストの会が、誕生と同時に圧倒的な数を握ったり、激動の1年という印象である。私たち東京都医療社会事業協会も、東京都への予算要望行動について、例年は8月に東京都に要望書を提出し、都議会各会派への申し入れ、9月のヒアリングであったが、平成29年度は、6月に要望書提出、7月、8月の都議会各会派への申し入れ、ヒアリングと要請行動を早めたため、都民ファーストの会へのアクションがずれてしまった経緯がある。

東京都の次年度の予算編成は、8月に担当課が原案を作り、それが部、局と上がっていき、9月～10月に最終原案が決まり、その後に都知事のヒアリング、査定を経て、1月以降に都議会に諮られる流れのため、理事会では、従来の8月の要望書提出では遅いと考え、2か月前倒しで、動き始めた。それがちょうど都議会選挙と重なり、今回のずれになってしまった。ただ、今後も6月からの要望行動は継続して行くことが必要と思われる。

協会としてこの1年を振り返って、特筆することの一つは、会員名簿の発行を取りやめたことである。例年であれば、2年に1度の会員名簿発行の年であったが、2年に1度の見直しでは、情報がすぐに古くなり活用しづらいことや労力や経費がかかりすぎることから、印刷を止めホームページの会員専用ページに載せることにした。

もう一つは、年一回出版している「医療ソーシャルワーク」は、良い書籍なので多くの方に購読してほしいとの思いから、販売価格を、税抜き1,500円から税込1,000円に値下げしたことである。

この他、会員の協力を得て実施したものとしては、「ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い」や「医療と福祉110番」などがある。

また、夜間講座は、テーマが関心のある題材だったのか、例年になく参加者が増え、定員の100名に迫る人数の参加があった。

平成29年度も都内の医療関連各職種が集う医療ネットワーク会議や、東京都より東京都医師会が委託された東京都在宅療養推進基盤整備事業の多職種連携連絡会への参加、東京都主催の退院支援人材育成研修への講師派遣など、各種団体や行政と連携・協働なども行った。

その他、事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

1. 一般社団法人として求められている要件整備に努めた。
2. 事業に関する会員の理解を深め、会員が主体的にかかわり、積極的に参加できるように努めた。
3. 医療福祉関係の他団体との連携を深め、公益事業と社会活動を推進した。
4. 東京都及び都議会各派へ、医療福祉の向上のため要望書を提出した。
5. 協会活動の情報提供や会員の意見交流の場として、出版活動及びホームページの充実に努めた。
6. 講座・研修会を開催し、会員の専門性の向上に努めた。
7. 医療福祉相談事業の充実に努めた。
8. 医療福祉問題研究委員会活動の充実に努めた。
9. 広く都民に対する公益活動として公開講座を開催した。

## I. 管理運営報告

- 1) 公益法人の要件整備に努めた。
  1. 公益法人の最高意思決定機関である社員総会への出席会員の増員に努めた。
  2. 協会事務所の事務局体制を週5日稼働し、会計処理をはじめとした各部理事体制における事務処理の流れを事務局にて処理した。
  3. 公益法人の原資である会費については、各ブロックの世話人と理事の協力で未納会員の納入促進を図り、財源確保に努めた
  
- 2) 公益性の高い公益（自主）事業の継続に努めた。
  1. 広く都民に対しての公開講座を開催した。
  2. 江戸川区医療福祉相談会を開催した。
  3. 西東京市医療福祉相談会を開催した。
  4. 葛飾区医療福祉相談会を開催した。
  5. 江戸川区神経難病検診を実施した。
  6. 清瀬市医療福祉相談会を開催した。
  7. 豊島区医療福祉相談会を開催した。
  8. 医療関連12団体で構成する医療従事者ネットワーク連絡会を中心とした看護フェスタに「医療福祉の相談コーナー」を設置し、相談会を開催した。
  
- 3) 医療福祉向上のため都知事及び都議会各政党・会派に対し要望書を提出した。
  
- 4) 他団体との連携を図り社会活動の推進に努めた。
  
- 5) ブロック代表世話人会と地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会を定期開催し、各ブロックの活動を支援するとともに協会活動の活性化に努めた。
  
- 6) 広報活動
  1. ホームページを活用し、広く協会活動の広報に役立てた。会員名簿の掲載を行った。
  2. 会員向けに「東京MSW」ニュースを発行し、内容の濃い企画、編集を行い情報提供に努めた。
  
- 7) 次の事業について東京都から受託契約し、事業が円滑に遂行されるように努めた。
  1. 地域巡回医療福祉相談事業
  2. 電話相談事業（医療と福祉110番）
  3. 医療社会事業従事者講習会、新人研修特別講座
  4. グループスーパービジョン（4講座）
  
- 8) 求人求職について「ホームページ」に随時情報を掲載した。
  
- 9) 会員の入退会状況を速やかに把握するように努め、ブロック代表世話会を通じブロックに情報を提供した。

10) 相談会活動時に会員及び来談者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

11) 理事会、及びこれに準ずる活動時に参加者・出席者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

12) 会員の異動状況（平成29年度）

	正会員	準会員	賛助会員	合計
入会者数	100	17	1	118
退会者数	108	27	2	137
現会員数	722	99	10	831

\*2018年3月31日現在

表1. ブロック活動状況

第1ブロック		第2ブロック	
4/5	世話人会	4/13	世話人会
6/9	世話人会	6/16	交流会
7/28	勉強会 1ブロック・2ブロック情報交換会	6/20	情報交換会の打ち合わせ
		7/14	世話人会
		7/28	1ブロックとの情報交換会
		8/17	世話人会
9/6	世話人会	9/14	世話人会
11/21	勉強会 病院・施設見学会 in 清瀬 自省館、救世軍清瀬病院 ベトレヘムの園病院の3施設を見学	10/11	世話人会
		11/17	勉強会「知っていますか？看護小規模 多機能・小規模多機能」 講師：松浦明美氏、鈴木雄生氏
		11/19	巡回相談会 八王子いちよう祭り
		11/27	世話人会
12/5	世話人会	12/19	世話人会
1/13	巡回相談会（西東京市） 講演会「人生90年時代の選択」 医療ソーシャルワーカーによる 個別医療福祉相談会	2/22	勉強会「保健所の業務内容について」 講師 八王子市保健所 片岡幸子氏 小池明子氏 小竹亜希子氏
3/9	世話人会（新旧世話人の引き継ぎ）	3/14	世話人会
世話人・運営委員	◎佐藤妙子（武蔵村山病院） ○市川葵（一橋病院） ▲中村江里（田無病院） 尾花直子（多摩済生病院） 大西雄太（緑風荘病院） 吉田麻衣（東大和病院） 堀あゆみ（信愛病院） 豊田弥穂（山本病院）	◎金丸恵子（老健エンジェルコート） ○田原真理子（羽村三慶病院） ▲高島彩実（日の出ヶ丘病院） ▲西村裕子（櫻井病院） 浅古美絵（東海大学八王子病院） 武井純一（老健ぐらんぱぐらんま） 山本青空（多摩平の森の病院） 大栗里沙（ふれあい相互病院） 富士川泰裕（康明会病院）	

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

第3ブロック		第4ブロック
4/13	世話人会	4/12 世話人会
5/11	世話人会	5/28 地域巡回医療福祉相談会
6/ 7	世話人会	6/15 世話人会
6/15	情報交換会	
7/13	世話人会	7/25 施設見学会 浮間船渡医療福祉の園
9/ 6	世話人会	9/14 世話人会
10/18	研修会「MSWのためのメンタルヘルス」	10/21 情報交換会
10/25	世話人会	
10/29	巡回相談会「豊島ふくし健康まつり」	
11/15・16	巡回相談会 「いたばし健康まつり 2017」	
11/21	世話人会	
1/10	世話人会	1/10 世話人会
2/16	懇親会	2/17 情報交換会
3/13	世話人会	3/15 新旧世話人引き継ぎ会
世話人・運営委員	◎的早克真（東友会・原爆被爆者相談所） ○小畑由佳 （大泉生協病院→東京健生病院） ▲松本映里子（高島平中央総合病院） ▲中里香（大塚クリニック→休職） ▲小柳佳南子（帝京大学医学部附属病院） 砂原聡子（豊島病院） 岩上香菜子（東京都健康長寿医療センター） 齋藤歩美（明理会中央総合病院） 佐藤佳奈（日本大学医学部附属板橋病院）	◎徳田匡彦 （自宅会員） ○小川絢多（東京医科大学附属病院） 青田薫枝（順天堂医院） 飯島大樹（永寿総合病院分院）

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

第5ブロック		第6ブロック	
4/28 世話人会		5/24 世話人会	
6/6 世話人会			
6/9 勉強会 「訪問看護ステーションについて」			
7/19 世話人会 7/28 新人歓迎会		7/5 世話人会 7/21 名刺・情報交換会	
8/24 世話人会		9/6 世話人会 9/21 越川病院見学会	
10/5 世話人会 10/12 勉強会 「身寄り無し。あなたならどうする。」 10/28 巡回相談会（江東区民まつり）		11/5 巡回相談会OTAふれあいフェスタ 11/22 世話人会	
12/14 世話人会		1/17 世話人会	
1/19 情報交換会 1/19 世話人会		2/22 勉強会 「地域包括ケアシステムの現状と地域共生社会への展望」～今、医療機関やMSWに求められているもの～	
3/2 施設見学会「イムス東京葛飾総合病院」		3/14 世話人会	
世話人・運営委員	◎上田美佐江（がん研有明病院） ○笹本千壽子（東京東病院） ○加藤大介（東京東病院） ▲弘永幸子（賛育会病院） 須藤順子（京葉病院） 杏澤郁子（水野記念病院） 金子 充（さくら錦糸クリニック） 鈴木隆之（がん研有明病院） 倉知志帆（苑田第三病院）		◎中林亮太郎（杉並区地域包括支援センターケア24上井草） ○鈴木勝喜（セントラル病院） ○柏木秀昭（セントラル病院） ▲勝屋房代（越川病院） ▲若林磨美（東京労災病院） ▲高橋幸子（吉川内科医院） 竹内香織（昭和大学病院） 藪かおり（昭和大学病院）

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

## 第7ブロック

第7ブロック	
4/28	世話人会
6/16	名刺交換会
9/28	世話人会
11/17	勉強会「記録の取り方・書き方」
12/2	巡回相談会（調布市）
1/26	情報交換会
2/16	施設見学会（東京高次脳機能障害者支援ホーム ヒブディ東京）
世話人・運営委員	◎大串悠太郎（三鷹中央リハケアセンター） ○佃 恵理（老健ふれあいの里） ▲平林典之（三鷹中央病院） 深澤佳奈（多摩川病院） 堀尾彩乃（都立多摩総合医療センター） 山下舞子（366リハビリテーション病院） 青松貞光（吉祥寺南病院）

（ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計）

## II. 各事業報告

### 【定款第1号事業】

#### 1) 医療ソーシャルワークの普及及び向上に寄与する事業

##### 1. 地域巡回医療福祉相談【受託事業】

地域巡回医療福祉相談は、各ブロックの運営委員会を中心に実行委員会を組織し、多くの会員の協力のもとに年7回実施した。

日程		開催場所	相談 件数	特別企画
1	1 / 13 (土)	西東京市障害者総合支援 センターフレンドリー	6	講演会及び相談会 (アンケート42名)
2	11 / 19日)	八王子市	8	八王子市いちようまつり (アンケート28名)
3	11 / 15 (水)、 11 / 16 (木)	板橋区立グリーンホール	26	いたばし健康まつり (アンケート154名)
4	5 / 22 (日)	港区芝公園	2	みなと健康まつり (アンケート23名)
5	10 / 28 (土)	江東区木場公園	12	江東区民まつり
6	11 / 5 (日)	平和の森公園緑のエリア	8	OTAふれあいフェスタ (アンケート89名)
7	12 / 2 (土)	調布市駅前広場 (調布社 協)	4	調布市福祉まつり (アンケート35名)

##### 2. 電話相談 (医療と福祉110番)【受託事業】

平成30年2月6日～2月11日までの6日間、電話相談を実施した。件数については、下記表中に含まれる。

地域巡回医療福祉相談と電話相談の相談内容と件数

事 項	面接	電話	文書	計
病気から派生した本人家族の社会生活上の問題	25	19	0	44
病気又は治療の障害となっている心理的不安等 精神的問題	16	20	0	36
病気又は問題の要因となっている患者の家族関 係やその他の対人関係の調整	5	4	0	9
治療費や生活費等の経済的問題に対する各種制 度の利用斡旋	10	13	0	23
医療施設や社会福祉施設の利用をめぐる問題	16	8	0	24
看護や療養・生活指導をめぐる問題	13	2	0	15
退院後の社会生活への復帰をめぐる問題	7	4	0	11
その他医療福祉に関する相談	27	9	0	36
合 計	119	79	0	198



### 3. 公開講座【自主事業】

平成30年2月24日（土）、中野サンプラザにて「仕事と治療の両立支援～職場と病院と相談しよう 私や同僚が病気になっても仕事を続けられるように～」のテーマで開催した。前半は、三井記念病院のソーシャルワーカーの尾方氏より、がん相談支援センターでの両立支援にかかわる相談についてお話頂き、後半は近藤社会保険労務士事務所の近藤明美先生より職場の制度や配慮、社会保障制度についてお話頂いた。お二人とも身体・こころ・生活（仕事）の側面から具体的な事例を用いてのお話で、両立支援について自分や身近な人のことを考えていく際に大変参考になる講演となった。

### 4. 難病検診への参加協力

#### （1）東京都難病相談・支援センターについて

同センターは、難病患者さんの日常生活における相談を受け支援を行い、また地域交流や活動を行う拠点として、患者さんの療養を支えるために設けられている。2017年より、順天堂医院に移転となった。

#### （2）難病無料医療相談会について

難病無料医療相談会は東京都から委託を受け東京都難病相談・支援センターが実施している。平成29年度は、7回の開催となった。相談申し込みは、完全予約制となっており、難病相談・支援センターが受け付けている。相談会の内容は、専門医が一件20分を目安に個別に来所者（患者・家族）から医療に関わらず生活面等、様々な相談に応じている。

#### （3）ソーシャルワーカーの役割について

当協会では、難病無料医療相談会に毎回2～3名のMSWの派遣に協力し、専門医と面接前の事前面談を担当している。平成29年度においてもMSWは、医師との面談の前に来所者の相談内容を確認し、20分という限られた医師との面談を有効に使えるように関わった。また、生活に関わる相談の内容には個別に相談に応じた。

① 日 時：平成29年9月18日（月祝） 11：00～16：30

対象疾患：リウマチ

協力SW：井上孝義（信愛病院）、山我香子（三宿病院）

来談者：17名

② 日 時：平成29年10月29日（日） 11：00～16：30

対象疾患：神経系疾患

協力SW：井上孝義（信愛病院）、永田真佑美（杏林大学附属病院）

来談者：7名

③ 日 時：平成29年11月19日（日） 11：00～16：30

対象疾患：網膜色素変性症

協力SW：井上孝義（信愛病院）

来談者：4名

④ 日 時：平成29年12月17日（日）11：00～16：30  
対象疾患：潰瘍性大腸炎・クローン病  
協力SW：井上孝義（信愛病院）、齋藤久美子（健康長寿医療センター）  
駒山裕耕（帝京大学医学部附属病院）  
来談者：12名

⑤ 日 時：平成30年1月21日（日）11：00～16：30  
対象疾患：血液系疾患  
協力SW：井上孝義（信愛病院）  
来談者：5名

⑥ 日 時：平成30年2月25日（日）11：00～16：30  
対象疾患：膠原病  
協力SW：井上孝義（信愛病院）、村本ゆう子（東京女子医科大学病院）  
平田和広（上板橋病院）  
来談者：26名

⑦ 日 時：平成30年3月21日（水祝）11：00～16：30  
対象疾患：脊柱靭帯骨化症  
協力SW：井上孝義（信愛病院）、野村洋平（東部地域病院）  
来談者：16名

#### 5. 地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区、清瀬市、豊島区の独自相談会実行委員が、相談会活動の企画や今後の運営等について情報共有及び協議する場として、社会問題対策部と総務部共催で委員会を開催した。相談会のより一層の充実を図り運営事務手続きを整備し、各ブロックでの活動の支援を行った。

#### 6. 江戸川区医療福祉相談会【自主事業】

平成29年6月18日（日）、江戸川区医師会会館にて第39回江戸川区医療福祉相談会を、医師会、江戸川区の後援を受け、多職種と共に開催した。平成29年11月11日（土）江戸川区介護フェア実行委員として参加した。江戸川区主催の医療福祉連絡会をMSW、地域包括支援センターと共に年2回企画開催した。医療福祉連絡会をこれらの活動を通じて、MSWと行政、医療機関との連携が強化され、地域福祉活動に寄与している。（相談件数は順に7件、27件）

#### 7. 葛飾区医療福祉相談会【自主事業】

平成29年11月19日（日）かつしかボランティアまつり、平成30年3月3日（土）、葛飾区パルフェスタにて、区の協力のもと相談会活動を行なった。相談会を通じて、地域との関係性を深めている。（相談件数は順に30件、21件）

#### 8. 西東京市医療福祉相談会【自主事業】

平成29年6月24日(土)ひばりヶ丘団地 南集会所にて、地域の民生委員を対象に「MSWの役割」をテーマに説明とグループワークを行った。(参加人数15名)

#### 9. 清瀬市医療福祉相談会【自主事業】

10月28日(土)、清瀬市社会福祉協議会主催「清瀬ふれあい祭り」に参加。保健・医療・福祉サービスの情報提供や個別相談を行った。(相談件数15件)

#### 10. 豊島区医療福祉相談会【自主事業】

今回、豊島区において初の独自相談会開催となった。10月29日(日)「豊島区ふくし健康まつり」にて、薬剤師会主催の健康展の中にブースを設置、個別相談を行った。(相談件数15件 アンケート112件)

#### 11. 江戸川区神経難病検診【自主事業】

江戸川区・区医師会主催、(社)東京進行性筋萎縮症協会後援の江戸川区神経難病検診について、当協会が参加協力の依頼を受けている。今年度は、10月1日(日)江戸川区医師会館にて開催され、MSW2名を派遣し医療福祉相談に対応した。

#### 12. 震災支援活動【自主事業】

大震災発生から7年を経過した現在も、被災された方々において健康問題や生活の場の喪失、孤立化など医療や福祉に絡む様々な問題が生じている。よって、今後も震災支援の継続が必要と考える。

一方で近年、全国各地において震災や台風、噴火など様々な自然災害が頻発している。

都内近郊においても、南海トラフや首都直下型地震、風水害、大事故など、今後大きな災害が起こり得ることを常に意識していかなければならない。

被災者への支援、都内の災害支援対策の確立を目指し、平成29年度は以下における活動を行ってきた。

##### (1) 支援活動の運営

「災害支援対策委員会」において定期的に活動の打ち合わせを重ね、今年度は計12回開催している。

委員会の構成メンバーは、三役、各部理事、活動に賛同する一般会員である。協会内に委員会を設置することにより、平成23年以来、継続的な活動を図ることが可能となっている。

##### (2) 被災者への支援

平成30年2月6日(火)～11日(日)にかけて、当協会で行っている電話相談「医療と福祉110番」のチラシに、被災者の相談にも応じる旨を記載し、広報に務めた。

支援活動の一環として「広域避難者と支援者によるふれあいフェスティバル」等、避難者交流会への参加、広域支援ネットワーク等に参加し、各関係機関や団体と連携を図った。

「広域避難者の総合的支援の継続」についての直接要望を、東京都に提出した。

「子どもの甲状腺検診」(生活協同組合パルシステム東京主催)へのMSW派遣を受託、受診者へのアフターフォローの相談窓口に会員を派遣した。

### (3) 防災・減災対策

首都圏直下型震災への準備や他地域の震災支援が的確に行えるようガイドライン・規約の作成を協議してきた。

災害時の業務継続に備え、郊外のサテライトオフィスとの契約・データの保管を継続している。

東京都社会福祉協議会主宰「災害福祉広域支援ネットワーク推進委員会」に参加。東京都や各専門職団体と、災害時における福祉支援に関する協議を図っている。

平成30年度実施予定の災害時想定訓練の準備に関して、連絡手段も含め検討を進めてきた。

### (4) 会員や関係機関・団体への教育及び広報活動

災害支援ニュース「つたえる」を定期的に発行することにより、会員や外部に向けて、災害支援の継続的な必要性のアピールを行った。

2017年3月に出版した別冊「つたえる」第2号に関して、関係機関への配布に務めた。

平成30年1月26日(金)、熊本県医療ソーシャルワーカー協会の土肥 尚浩会長を講師とお招きし、災害研修・講演会を開催した。

平成30年2月23日(金)、振り返りや意見交換の場として「MSWと災害を語る夕べ」を開催した。

現地訪問と各県のMSW協会との交流・情報交換として、平成30年3月17日(土)～18日(日)に宮城県医療ソーシャルワーカー協会との交流会と報告会・研修参加、石巻市のフィールドワークを行った。現地に出向くことに関して、被災の状況を深く理解し、MSW同士の交流・連携を深め、現状を外部に伝えるための重要な機会となっている。

教育・啓蒙活動として、第36回日本医療社会事業学会(北海道)にて、当協会の活動について発表した。

以上、各関係機関や他県のMSW協会と交流・連携を深めながら、協会全体の協力体制を強化に務めた。

## [定款第2号事業]

### 2) 会員の専門知識・技術の向上に関する事業

#### 1. 講座【自主事業】

平成29年度は、「多問題を抱える家族について考える」を年間テーマとして計3回の夜間講座を開催した。遠藤嗜癖問題相談室室長の山本由紀先生に3回を通じて担当いただいた。

第1回は、平成29年9月13日に渋谷区の家庭クラブ会館ホールにおいて、「家族システム論から理解する」と題して、ご講演いただいた。

受講者は96名で、「アセスメントから問題を引き出すテクニックがよく理解できた」、「普段の業務における視点・ポイントを整理する講座であった、次回が楽しみです」、「日々の面接、アセスメントを見直す機会となりました。ありがとうございました」、「日常では

入院してきた患者本人にのみ焦点をあてて考えがちであり、退院したら終わりというところが多い、長い期間で家族全体をみていくという視点はとても勉強になりました」、等の感想が寄せられた。

第2回は、平成29年12月6日に豊島区の東京芸術劇場において、「DV・虐待等暴力の危機にある家族の理解と介入」と題して、ご講演いただいた。

受講者は69名で、「具体的な事例のお話も聞けて勉強になりました、相談が終結となった後も何十年と経た後に影響が出ていることも知れてよかったです」、「内容は難しかったが具体的・現実的なことを教わることが出来た、事例が出てわかりやすかった」、「大変参考になりました、明日から即生かしていけそうです」等の感想が寄せられた。

第3回は、平成30年3月7日に三鷹市のThreeEightNineMITAKAホールにおいて、「精神疾患のある人の家族（キーパーソンとして・ケアラーとして）」と題して、ご講演いただいた。

受講者は61名で、「精神疾患のある方と接するときは病気ばかりを考えてしまっていたので、生活面に注目していくことが大切であるということ、今後の支援に活かそうと思った」、「家族ゆえの愛憎・関係の複雑さに頭を抱えることも多いが、対象家族が孤立しないよう見守るという支援もあるということ」を学べ、大変勉強になった」等の感想が寄せられた。

この夜間講座は、公益社団法人日本医療社会福祉協会の認定医療社会福祉士申請のためのポイント対象の講座である。今年度は非常に受講生も多く盛況な会となった。今後も協会の興味を引くようなテーマの選定や、利便性のよい会場の選定など、取り組んでいきたい。

## 2. 研修会 ※講師 敬称略

### (1) 新人研修【自主事業＋一部受託事業】

平成29年度も通年コース（2時間20回）と集中コース（2時間6回、7時間2回）の2つのコースを設定した。会場は、通年コース・集中コース共に家庭クラブ会館を中心に、数回飯田橋レインボービルを利用して開催した。

受講生募集方法に関して郵送での申込み形式をとったが、申込み者が非常に多い現状だった。

平成29年度は通年コースが40名定員のところ申込み多数のため46名と定員越えて開講した。集中コースも20名定員のところ申し込み多数のため25名で開講した。通年コースの修了証は受講生全体の7割、皆勤賞は3割弱の方に発行した。集中コースは修了証は受講生全体の8割弱、皆勤賞は4割の方に発行した。なお、例年同様、前年度の受講生に協力員として参加を依頼した。

また、今年度も受講生に講義内容の振り返りとして毎回「気づきと感想」を提出してもらい今後の研修内容の検討材料として活用した。来年度の研修に反映させたい。

- 【講師】 武内 昶篤 （東京都医療社会事業協会副会長）  
樋口 昌彦 （至誠会第二病院）  
仲谷 美恵子 （森山記念病院）  
平岡 久仁子 （帝京平成大学）  
山下 律子 （山下社労士行政書士合同事務所）  
柴田 礼子 （順天堂大学医学部附属練馬病院）

小嶋 章吾 (国際医療福祉大学)

小松 美智子 (武蔵野大学)

## (2) グループスーパービジョン【受託事業】

### ①Aグループ

【講師】 古屋 龍太 (日本社会事業大学大学院)

毎月第3または第4水曜日に受講生9名で東京芸術劇場にて開催された。

事例提供者が事前に文字列でまとめる印刷資料は配布せず、全て言葉でやりとりを行い、先生はその内容をホワイトボードを使用してまとめていくスタイルで進められた。受講生は事例提供者に質問をし、事例に肉付けを行っていき、事例提供者は事例と事例提供者との関わりのプロセスとストーリーを確認しながら、自身の関わりや想いを言語化する。他の受講生からの視点で発せられる言葉に耳を傾け、再度事例の整理を行い、最後に励ましの言葉をもらい終了していく。受講生からは「月に1回定期的に受講することで自身の業務の振り返りの時間を持つことができ、非常に役に立った。他院MSWと日々の業務の想いを共有ができる場であることも自身の業務遂行の救いになった」、「他の受講生の視点や先生からの言葉で新たな気づきがあり、とても充実した研修となった」、「経験年数が近いMSWが悩んでいることの共有、自分にはない視点・考え方を知ることができたことで今後の業務に生かせる。率直な意見を言いやすい雰囲気でもよかった。受講生同士交流を深められ、先生の意見も聞けるので学びの多い研修となった」などのコメントがあった一方、「経験年数に応じて課題があると思います。できれば経験年数は同じくらいの方にしたほうが良いのではないかと感じました。どうしても経験年数がある方の意見が強く、自由な発言が出なくなり、全体が委縮してしまっているように感じました」という意見もあった。来年度は、さまざまな経験年数の受講生同士が円滑な意見交換が出来るよう工夫を図っていく。

### ②Bグループ

【講師】 石井 三智子 (日本社会事業大学)

9名の受講生が参加し、原則毎月第4木曜日に家庭クラブ会館にて開催された。初回はオリエンテーションを行い、2回目以降は受講生からの事例提示と全体での事例討議および講師からの文献を用いた講義という形で、計10回開催した。受講生の経験年数は1～4年であった。受講生からは、「自分の事例のみならず、他の受講者の事例も十分に話し合える時間があってよかった。また、石井先生からの振り返りがあったことで、事例作成・発表以外にもケースを客観的に捉えることができ、よかった」、「様々な機能の病院のSWと事例検討したことで、日頃の実践の振り返りだけでなく、多面的な視点でケースを考えるきっかけにもなった。翌月に石井先生との振り返りの時間を設けてもらったこともよかった」等、満足度の高い感想が寄せられた。

### ③Cグループ

【講師】 朝比奈 朋子 (東京成徳大学)

毎月第2または第3月曜日に受講生9名が参加し、家庭クラブ会館にて計10回が開催された。毎回、担当受講生より提出された事例をもとに受講生全員と議論しながら進められ、「生活アセスメントシート」を用い、丁寧にクライアントの生活を捉えながらグループ

スーパービジョンが展開された。参加した受講生からは、「生活を見るために、クライアントの出身・職業など現在に繋がるクライアントを理解するにあたってのポイントを認識することができた」、「受講してアセスメントの大切さを再認識することができた。生活アセスメントを通じて、クライアントの理解を深めることができた」、「先生の人柄からか、とても穏やかな雰囲気です。毎回学ばせてもらった。生活アセスメントの視点として、方法論だけではなく、職業的な背景（銀行員の定年・漁師の給与は年数ではなく人数制等）を学ぶことができ、大変勉強になった」などのコメントがあり、講義内容に対しても満足度が高かった。

#### ④Dグループ

【講師】助川 征雄（聖学院大学）

毎月第3金曜日に受講生10名で家庭クラブ会館にて開催された。毎回、担当受講生より提出された事例について、受講生皆による対応方法の検討や振り返り、講師からの視点の投げかけや理論的助言を加える形で、支持的な関わりを中心としたグループスーパービジョンが展開された。受講生からは、「自分の職場を離れて職場を客観的にみることで、機能やエリア・組織のあり様が異なる他の現場のSWとの出会い、刺激をもらえる場でした」、「安心して話せる場、であり、グループのメンバーに感謝します」、「先生は私たちの頑張っている点に目を向けて下さるので、日々の業務でいっぱいになっている中で、すっきりさせてもらえました」、「とても受容的な雰囲気です。いつもエンパワメントしてもらいました。出席することで自信を取り戻し前向きになることができました」などのコメントが聞かれ、来年度も開催して欲しいとの希望が多く、とても高い満足度が確認できた。来年度は、さまざまな経験年数の受講生同士が円滑な意見交換が出来るよう工夫を図っていく。

#### (3) スーパーバイザー養成講座【自主事業】

【講師】福山 和女（ルーテル学院大学）

13名の受講生が参加し、毎月第3火曜日、全8回、家庭クラブ会館にて開催された。日常のスーパービジョン活動の中での疑問点、困難点、できていることの妥当性の証明が行われた。講座終了後のアンケートでは、回答者のほとんどが講座の内容について「とても良かった」と回答、「組織で働く人間としてどう考えるか、どうシステムをつくっていくか、という視点をもてるようになり、一年間とても支えられた」、

新人、ベテランの枠組みを超えてどの年代のMSWにも有効な「スーパービジョンとしての業務やソーシャルワーカーとしてのアセスメント等も点検できる機会であった」、等の声が聞かれた。

#### (4) コーチング講座【自主事業】

【講師】伊藤 三恵（オフィスDMe代表）

7名の受講生が参加し、土曜日の午後、月1回、5回連続の講義で、ThreeEightNineMITAKAにて開催された。

各回毎にコーチングにおけるテーマを定め、相手の自発的行動を促進して相手の成功（目標達成）と成長をサポートするコミュニケーション・スキルを身に付けていくことを目的に講義は行われた。アイスブレイクで前回の内容を復習することから始まり、その後は講

義と、2人1組でコーチとコーチを受けることをそれぞれが交互に行い実践していくスタイルで行われた。講義の最後は必ず課題が出され、ペアを組んだ相手と課題に沿ったコーチングを実践し、次回に報告を行う。受講生からは「次の面談からすぐにでも実践していきたい」、「コーチングしてもらい共感してもらうことで次に何をすべきなのか、自分自身にもセルフコーチングするという過程を感じることができた」、「毎回の課題が思い出すきっかけになり、継続の必要性を感じた」等の声が聞かれた。

第1回 知っておきたいコーチング「基本編」

第2回 知っておきたいコーチング「スキル編」

第3回 知っておきたいコーチング「コミュニケーション・スタイル編」

第4回 知っておきたいコーチング「自己基盤編」

第5回 知っておきたいコーチング「実践編」

#### (5) MSWのための労災講座【自主事業】

9月～1月までの間、月1回、5回連続の講義で土曜日の午後に開催された。受講生は7名で、毎回講師からの講義の後グループワークを行い、各受講生が労災についての知識の向上や理解を深めていった。受講生からは、「健康保険と労災について法律で根拠がはっきりと書かれていることについて改めて学び、労災の可能性のある患者さんにはきちんとアナウンスし支援をしていかなければならないと感じた」、「この講座を受けて以降労災に敏感になり、労災申請できるのではないかとというケースが多くなった。と同時に知らないことの恐ろしさも感じた。相談者が会社から99%労災申請は無理と言われても、相談者の利益を守るために支援者が諦めなかったこと、そこを支えていくことがソーシャルワークなのだと感じた」等のコメントが聞かれた。

今年度は受講生が7名と少なくなってしまったが、本講座は労災のみならず、MSWとして重要な視点を学ぶことができる講座でもある。次回以降は、より多くの受講生が参加できるよう、工夫する必要がある。

【講師】 高山 俊雄 (ひらの亀戸ひまわり診療所 MSW)

平野 敏夫 (ひらの亀戸ひまわり診療所 医師)

飯田 勝泰 (東京労働安全衛生センター 事務局長)

内田 正子 (東京労働安全衛生センター 事務局)

名取 雄司 (ひらの亀戸ひまわり診療所 医師)

#### (6) SW実践を伝えるスキルーアセスメントを考えるー【自主事業】

【講師】 佐原 まち子 (一般社団法人 WITH 医療福祉実践研究所代表理事)

今年度初めて開講した講座であり、全5回の講義が11月～3月までの間、土曜日の午後に開催され、20名の参加者が受講した。講師による講義とともに二回目以降はインシデントプロセス法で事例検討を行い、決められた時間のなかでエコマップを作成し、アセスメントを文章化する等の個人ワークとグループワークを織り交ぜ、アセスメントを言語化し、伝えるスキルの向上に役立つ時間となった。受講生からは「実際に取り組もうとすると手が止まってしまい、頭の中も整理できていないことを実感した」、「自分がいかに短絡的に考えて面談してきたかを実感した。このタイミングでそれに気がつくことが出来て本当によかった」、「限られた面接時間の中で、目の前のクライアントの発する言葉の意味を考えながら様々な事を教えてもらうよう心掛けていこうと改めて思った」、「皆さんのア



セスメントの決心・理由を確認すると人によって様々な視点があり、自分にはなかった視点があったと気づくことができた」、「自分の考えを言語化してアセスメントすることが弱いと感じた。アセスメントとプランが混同してしまいどうしてもプランが先にでてしまう。焦らず情報を冷静に収集し、分析し、まとめることができるように努力していきたい」、「“医学モデル”ありきの発言にも気を付けていきたいと思う。当たり前のように発していた言葉をもう一度振り返ってみて、自分の発言の意図、意味を大事にしたいと考えた。短時間の研修のなかで多くの学びを得られて有難い」等のコメントが聞かれ、事例をもとに共感的理解、面接技術、質問法等様々な視点を学ぶことで、日々のソーシャルワーク実践を再考する場となったことが確認できた。

### 3. プログラム検討委員会

協会の研修事業の体系、内容などを検討する諮問機関である。当協会で開催した全研修（平成22年～平成28年）について日本医療社会福祉協会に研修内容や参加者名簿を提出し、認定医療社会福祉士のポイント承認を得る作業を行った。また、平成30年度の研修について検討、協議を行なった。

- 【委員】伊藤 正子（法政大学）  
井上 歩（河北リハビリテーション病院）  
内田 美沙子（田無病院）  
大宮 謙一（荏原病院）  
田上 明（東京都清瀬喜望園）  
原田 剛（新山手病院）  
平井 隼人（西東京中央総合病院）  
藤井 かおる（京葉病院）

### 【定款第3号事業】

#### 3) 医療ソーシャルワークの必要な調査研究に関する事業【自主事業】

##### 1. 医療福祉問題研究委員会〔自主事業〕

当委員会は、「社会福祉・保健・医療分野における調査・研究及びソーシャルアクションを行なうこと」を目的に活動を行う。理事会が承認する専門部会である。

##### (1) ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い

昨年引き続き、今年度も2回開催した。

第6回は10月28日(土)「がん患者さんへの支援～在宅医療現場のMSWから～」と題し講義方式で行った。

公益財団法人豊島区医師会在宅医療相談窓口 中辻 康博氏より、豊島区の取り組みを例に在宅にMSWがいる意義、活用方法などについてお話頂いた。

第7回は平成30年1月27日(土)「リハビリテーションを望む末期がん患者さんへのソーシャルワーク～かけがえのない時間の中で全人的復権を考える～」をテーマにグループワークを行い、様々な立場での支援や価値観に触れる場となった。

(2) MSWによるセクシュアル・マイノリティへの支援  
委員会を開催し、平成30年度の活動に関して検討した。

(3) 小児医療問題専門小委員会  
計2回の委員会を開催し、平成30年度の活動について検討した。

(4) 医療事故調査制度

11月17日(金)「医療事故調査制度の現状と課題。ーソーシャルワーカーに期待するものー」と題し、きのした法律事務所 木下正一郎弁護士にご講演頂いた。制度の目的や概要、MSWが関わる際に行うべきことを学ぶ機会となった。

(5) 患者申出療養制度

8月に理事、関心のあるMSWで委員会を開催した。「MSWが改めて考える保険制度の会ー患者申出療養制度をきっかけにー」と称しメンバー募集を行い、平成30年度の勉強会について企画した。

#### 5. 地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区、豊島区、清瀬市の独自相談会実行委員が、相談会活動の企画や今後の運営等について情報共有及び協議する場として、社会問題対策部と総務部共催で委員会を開催した。相談会のより一層の充実を図り運営事務手続きを整備し、各ブロックでの活動の支援を行った。

### 【定款第4号事業】

#### 4) 刊行物の発行に関する事業

##### 1. 会員向けニュースレター「東京MSW」の発行（各号1000部）

会員向けニュースレター「東京MSW」342号（8月）、343号（11月）、344号（2月）、345号（5月）を発行し、会員相互の情報共有、新しい情報の提供を行うとともに、協会活動を発信する媒体として機能するような内容の充実に努めた。

##### 2. 機関誌『医療ソーシャルワーク』66号の発行

協会機関誌である『医療ソーシャルワーク』66号（3月）を発行した。

##### 3. 出版部会の開催

年間計画、各刊行物発行のための企画・検討部会を、5月29日、6月27日、7月15日、8月4日、9月1日、10月19日、11月16日、12月4日、12月25日、の計9回開催した。